

AIDS News Letter

2023年(令和5年)
東京都のHIV感染者・AIDS患者、梅毒患者の動向及び
検査・相談事業の実績

2023年(令和5年) のトピックス

- 1 HIV感染者及びAIDS患者の発生動向
- (1)HIV感染者及びAIDS患者を合わせた報告数は年々減少していたが、令和5年は302件（HIV感染者は247件、AIDS患者は 55件）と、7年ぶりに増加した（図-1）。

(2)国籍(日本・外国)、性別報告数は、日本国籍男性が233件と最も多いが、経年では減少しており、過去10年間で最も少なかった。一方、外国籍男性は近年減少傾向にあったが、前年より増加した（図-2）。

(3)推定感染経路別報告数は、性的接触によるものが250件で全体の82.8%、男性同性間性的接触によるものが、この10年間は75%前後で推移している。異性間性的接触は前年より減少し、過去10年間で最も少なかった（図-3）。

(4)年代別の割合は、HIV感染者、AIDS患者共に、約4割が30歳代で一番多かった（図-4）。また、HIV感染者よりAIDS患者は年齢が高い傾向にある。
- 2 保健所等における相談・検査体制
- (1)電話相談件数は、R4、5年と増加しており、R5年は11,110件と、前年から1,597件増加した。（図-5）。

(2)HIV検査件数は23,693件で、前年と比べて6,582件増加した。検査機関別では、全て前年より増加した（図-6）。陽性率は0.46%と前年より減少し、全ての検査機関で陽性率が減少した（図-7）。

(3)HIV検査件数は全体では20歳代、30歳代が多く、男性は30歳代、女性は20歳代が多い(図-8)。
- 3 東京都の梅毒患者の発生動向
- (1)梅毒の患者報告件数は、3,701件で前年より24件増加し、依然として多い状況が続いている（図-9）。

(2)推定感染経路別では、異性間性的接触が多く男性が前年より増加し、女性は減少した。一方、同性間性的接触の男性は異性間接触より少ないが、過去10年間で報告数が最も多かった（図-10）。

(3)男性は20～50歳代に多く、女性は20歳代に多い状況は変わっていない（図-11）。

(4)女性の性風俗産業の従事歴有は、この3年間約50%で推移している。一方男性の風俗産業利用歴有は、この3年間で増えており、R5年は32%であったが、不明・その他も37%となっている(図-12)、（図-13）。

本報告は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づいて、令和5年に報告されたHIV感染者とAIDS患者の統計及び区・都の保健所等における相談・検査業務の実績をまとめ、分析したものである。
また、図表中では、東京都新宿東口検査・相談室(旧東京都南新宿検査・相談室)を新宿東口、東京都多摩地域検査・相談室を多摩地域と記載する。
なお、令和2～5年については、検査縮小や一時休止等、新型コロナウイルス感染症の影響がある。

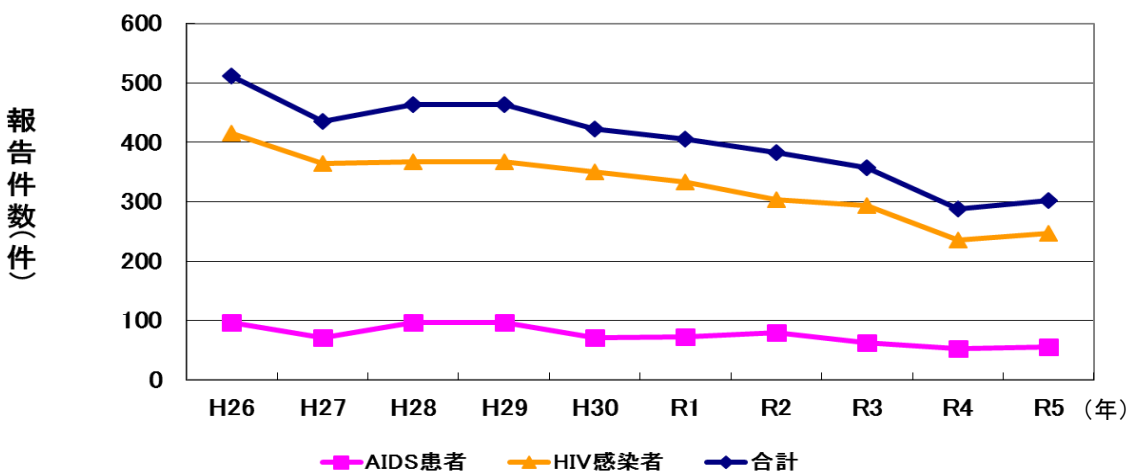
1 HIV感染者及びAIDS患者の発生動向

(図-1)

HIV感染者及び
AIDS患者の
報告数の推移
(過去10年)

ひとくち
メモ

HIV感染者：
HIV（ヒト免疫不全ウイルス）に感染しているが、
AIDSを発症していない状態。



	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
合計	512	435	464	464	422	406	383	357	288	302
HIV感染者	415	364	367	367	351	334	304	294	235	247
AIDS患者	97	71	97	97	71	72	79	63	53	55

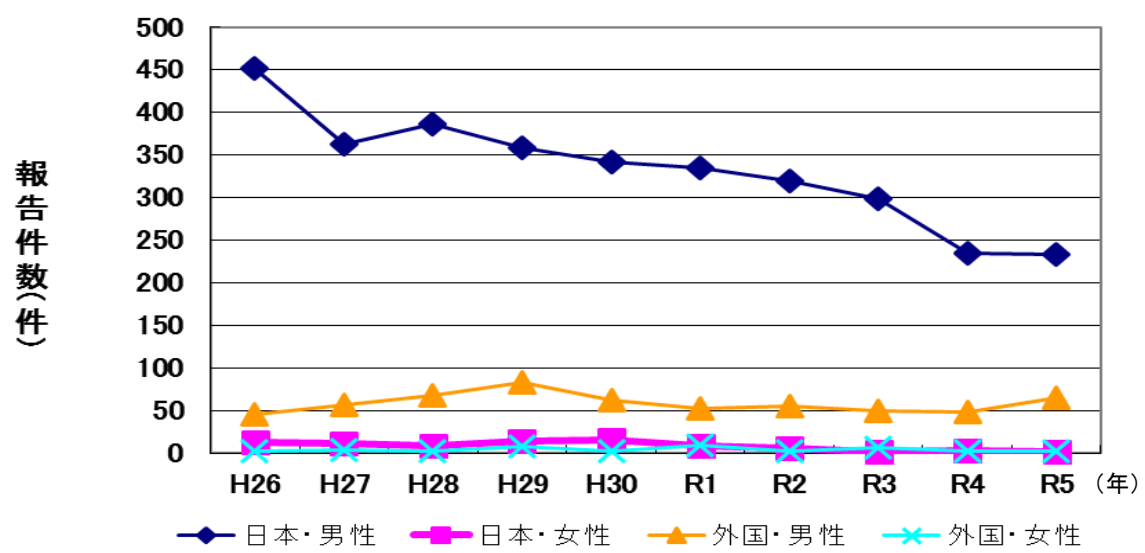
HIV感染者は前年より12件増加し247件、AIDS患者は2件増加し55件だった。HIV感染者及びAIDS患者の合計は、前年より14件増加し302件だった。

(図-2)

HIV感染者及び
AIDS患者合計
の国籍・性別報
告数の推移
(過去10年)

ひとくち
メモ

AIDS患者：
HIV感染により免
疫力が低下し日和
見感染症や悪性腫
瘍等（23指標疾
患）が認められた
状態です。
HIV感染後未治療
の場合、数年～10
数年でAIDSを発症
すると言われています。



	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
日本・男性	451	363	386	359	342	335	319	299	235	233
日本・女性	13	11	8	14	15	9	6	1	3	2
外国・男性	45	57	68	83	62	53	55	50	48	65
外国・女性	3	4	2	8	3	9	3	7	2	2
合計	512	435	464	464	422	406	383	357	288	302

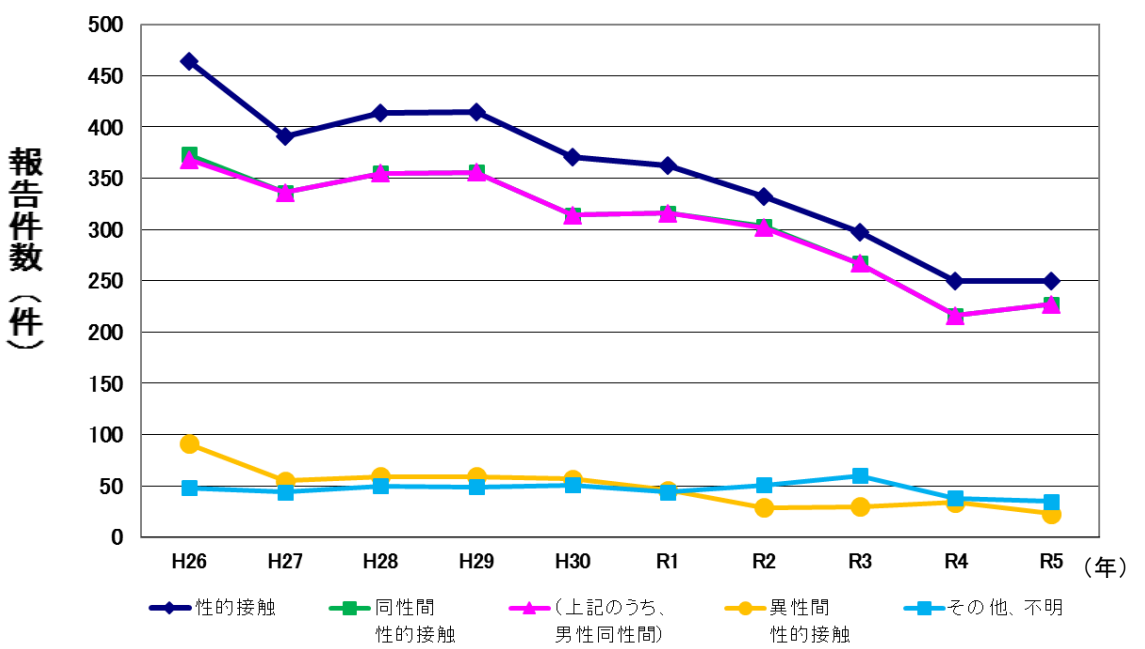
国籍(日本・外国)、性別報告数は、日本国籍男性は233件と最も多いが、経年では減少しており、過去10年間で最も少なかった。外国籍男性は前年より17件増加し65件、日本国籍・外国籍女性は低い値で推移している。

(図-3)

HIV感染者及び
AIDS患者合計の
推定感染経路別
報告数の推移
(過去10年)

ひとくち
メモ

図-3の「その他、
不明」には、感染
経路が不明や、母
子感染、静注薬物
使用の可能性のあ
る場合などが含ま
れます。



※同性間性的接触に両性間性的接触を含む。

	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
性的接触	464	391	414	415	371	362	332	297	250	250
	90.6%	89.9%	89.2%	89.4%	87.9%	89.2%	86.7%	83.2%	86.8%	82.8%
同性間 性的接触	373	336	355	356	314	316	303	267	216	227
	72.9%	77.2%	76.5%	76.7%	74.4%	77.8%	79.1%	74.8%	75.0%	75.2%
(上記のうち、 男性同性間)	368	336	355	356	314	316	302	267	216	227
	71.9%	77.2%	76.5%	76.7%	74.4%	77.8%	78.9%	74.8%	75.0%	75.2%
異性間 性的接触	91	55	59	59	57	46	29	30	34	23
	17.8%	12.6%	12.7%	12.7%	13.5%	11.3%	7.6%	8.4%	11.8%	7.6%
その他、 不明	48	44	50	49	51	44	51	60	38	52
	9.4%	10.1%	10.8%	10.6%	12.1%	10.8%	13.3%	16.8%	13.2%	17.2%
合計	512	435	464	464	422	406	383	357	288	302

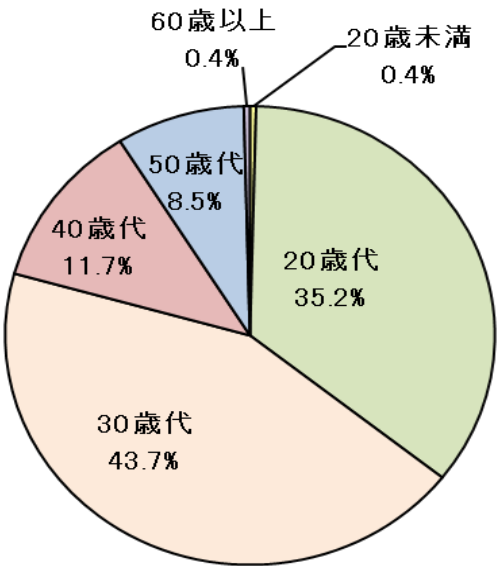
推定感染経路別では、性的接触が250件で全体の82.8%を占めた。男性同性間性的接触は前年より11件増加し、227件で75.2%だった。異性間性的接触は昨年より11件減少し、23件と過去10年間で最も少なかった。

(図-4)

HIV感染者及びAIDS患者の年代別割合(令和5年)

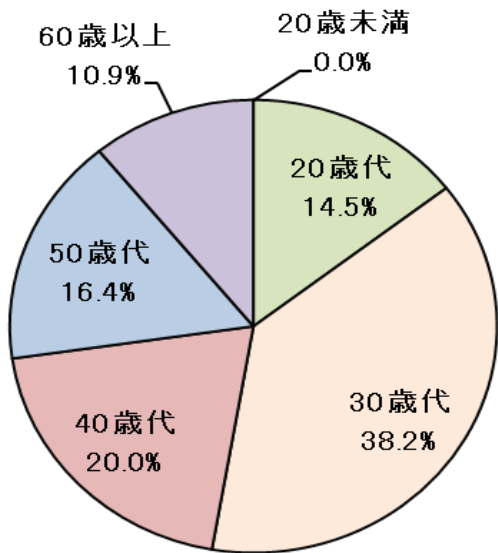
(1) HIV感染者

	HIV(件)
20歳未満	1
20歳代	87
30歳代	108
40歳代	29
50歳代	21
60歳以上	1
合計	247



(2) AIDS患者

	AIDS(件)
20歳未満	0
20歳代	8
30歳代	21
40歳代	11
50歳代	9
60歳以上	6
合計	55



HIV感染者、AIDS患者共に、30歳代が最も多かった。また、HIV感染者は20歳代から30歳代が全体の8割弱、AIDS患者は30歳代から40歳代が全体の6割弱であった。
HIV感染者よりAIDS患者の方が年齢が高い傾向にある。60歳以上は、HIV感染者1件、AIDS患者6件と数は少ない。

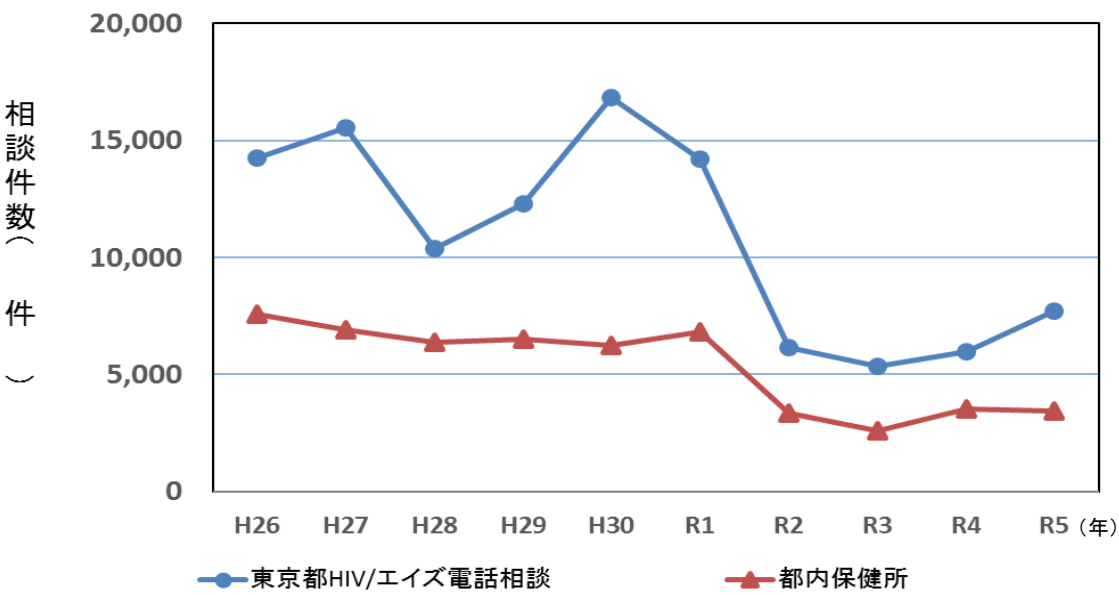
2 保健所等における相談・検査体制

(図-5)

電話相談件数の推移(過去10年)

ひとくちメモ

東京都HIV/エイズ電話相談：03-3227-3335
平日：正午～21時
土日祝：14時～17時
HIV/エイズに関する感染不安や予防などの相談に応じています。

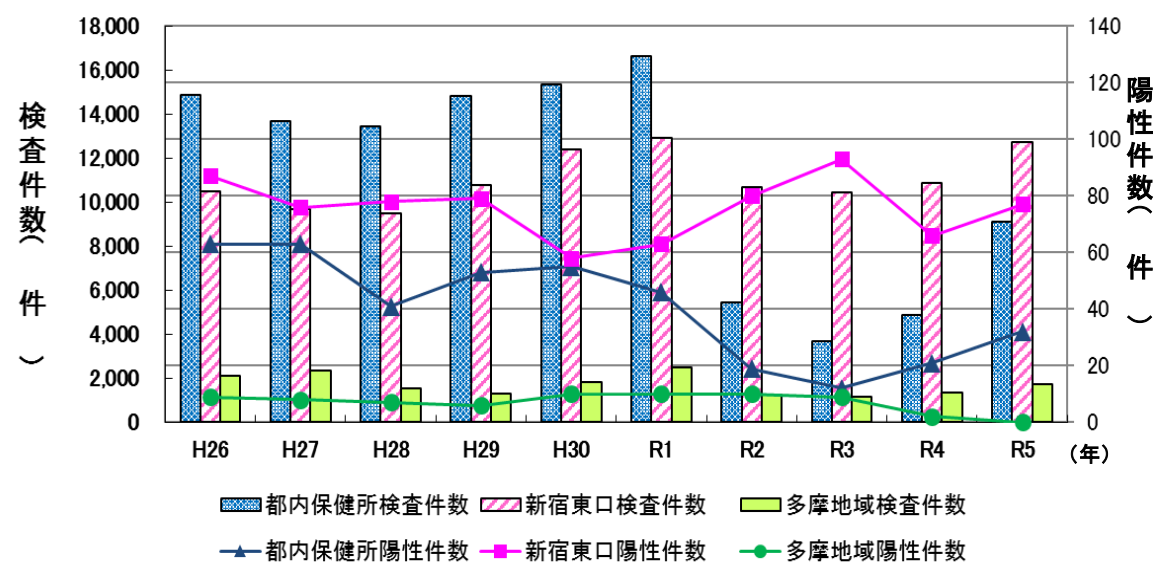


	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
東京都HIV/エイズ電話相談	14,263	15,555	10,389	12,293	16,836	14,181	6,167	5,342	5,974	7,695
都内保健所	7,566	6,915	6,352	6,525	6,220	6,836	3,340	2,601	3,539	3,415
合計	21,829	22,470	16,741	18,818	23,056	21,017	9,507	7,943	9,513	11,110

電話相談件数は前年より、東京都HIV/エイズ電話相談が1,721件増加し、3割程度増加した。都内保健所の相談件数は124件減少したが、全体的には1,597件増加した。

(図-6)

HIV検査件数
及び陽性件
数の推移
(過去10年)

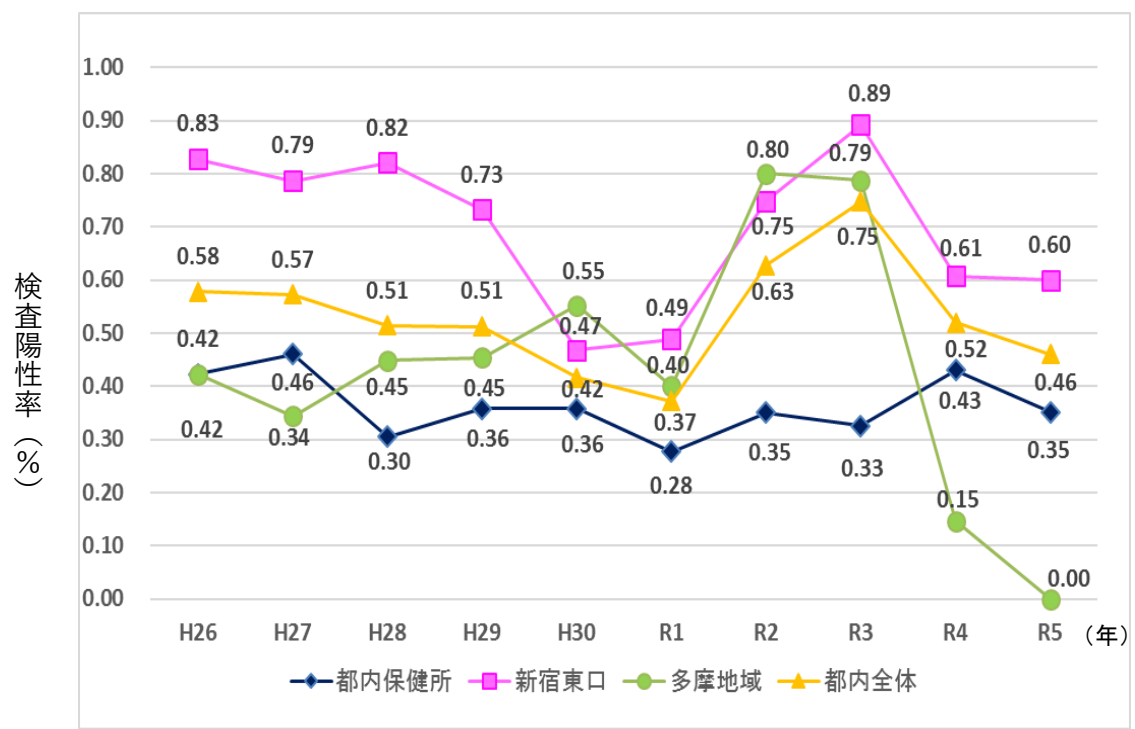


		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
検査件数	都内保健所	14,890	13,694	13,446	14,814	15,358	16,621	5,430	3,689	4,877	9,110
	新宿東口	10,512	9,662	9,501	10,785	12,408	12,897	10,691	10,427	10,870	12,846
	多摩地域	2,129	2,328	1,561	1,321	1,810	2,498	1,249	1,143	1,364	1,737
検査件数合計		27,531	25,684	24,508	26,920	29,576	32,016	17,370	15,259	17,111	23,693
陽性件数	都内保健所	63	63	41	53	55	46	19	12	21	32
	新宿東口	87	76	78	79	58	63	80	93	66	77
	多摩地域	9	8	7	6	10	10	10	9	2	0
陽性件数合計		159	147	126	138	123	119	109	114	89	109

HIV検査件数はコロナ渦で減少していたが、R4、5年と増加し、R5年は23,693件だった。検査機関別では前年より、都内保健所が4,233件、新宿東口が1,976件、多摩地域が373件増加した。
全体陽性件数は前年より20件増加し、109件だった。

(図-7)

HIV検査陽性率の推移
(過去10年)

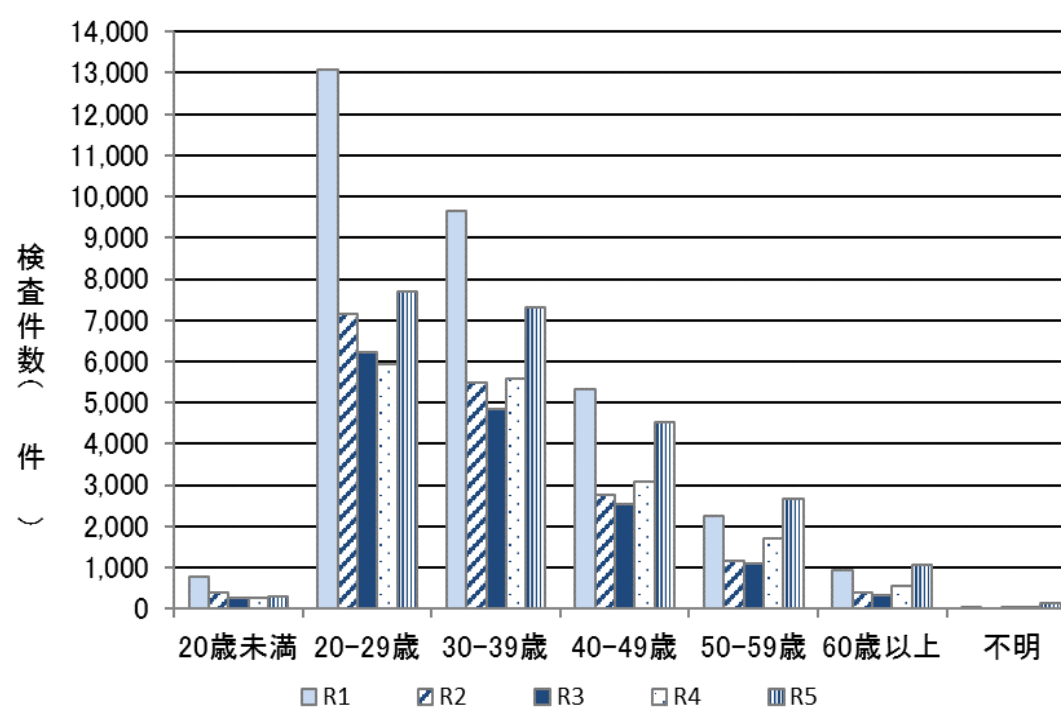


陽性率は、都内保健所はこの数年0.35前後で推移している。前年より、新宿東口検査・相談室では横ばいであるが、多摩地域検査・相談室が0件であった。

(図-8)

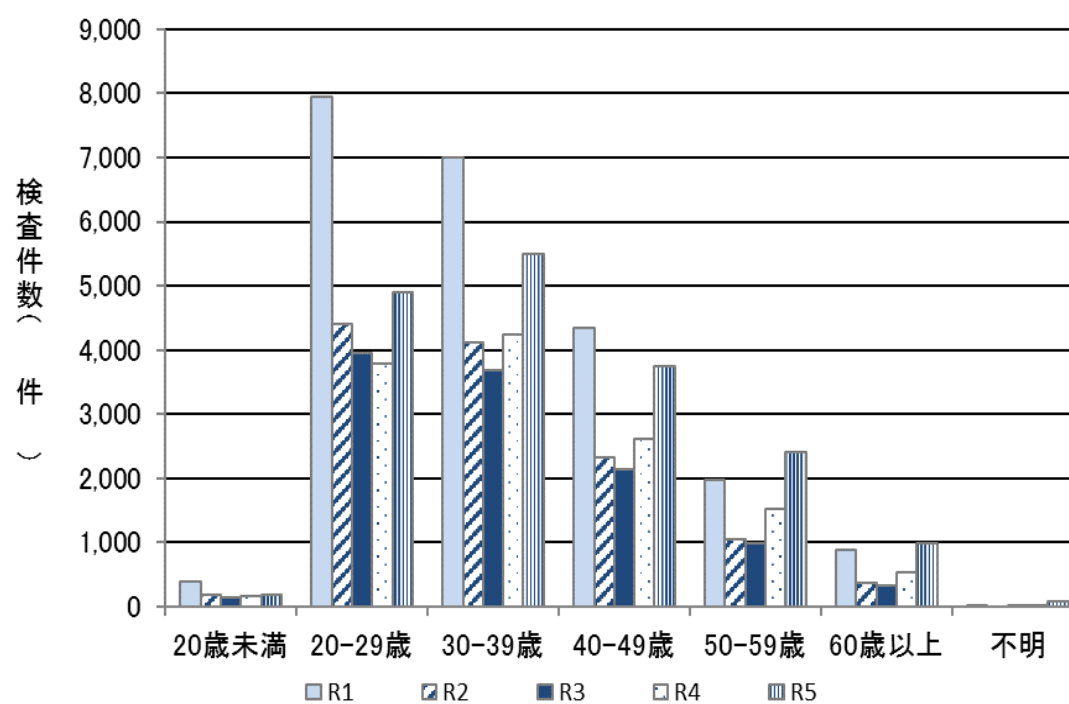
年代別HIV検査
件数の推移
(過去5年)

(1) 全体



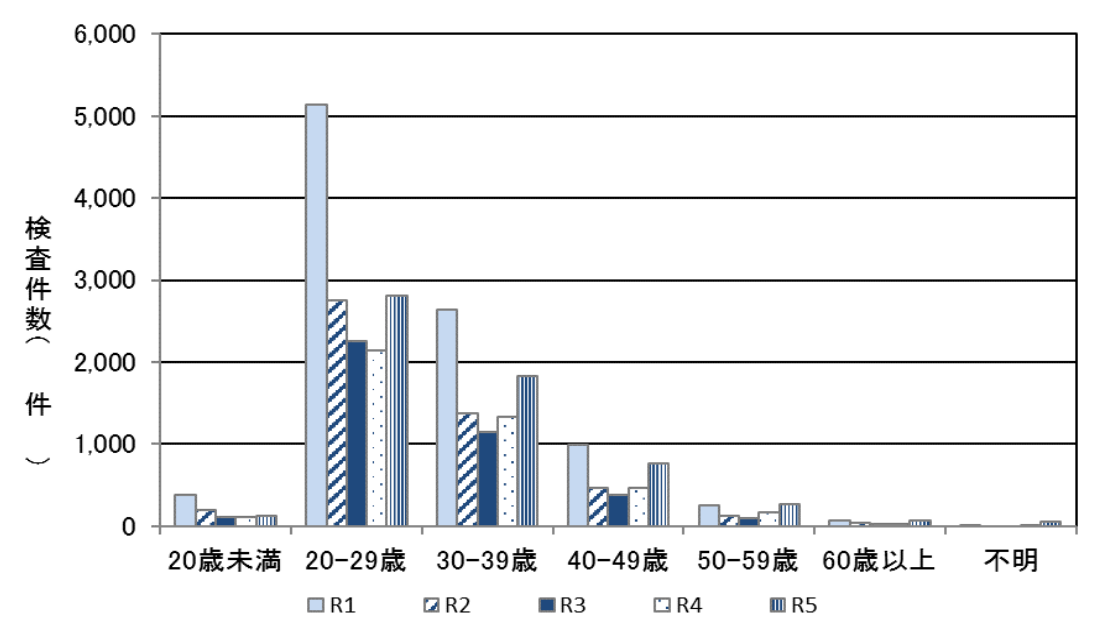
	20歳未満	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60歳以上	不明
R1	767	13,081	9,638	5,331	2,237	940	22
R2	385	7,162	5,487	2,777	1,160	399	0
R3	254	6,207	4,842	2,526	1,085	342	3
R4	274	5,940	5,579	3,071	1,691	550	6
R5	306	7,707	7,318	4,511	2,674	1,054	123

(2) 男性



	20歳未満	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60歳以上	不明
R1	386	7,940	7,005	4,335	1,983	874	15
R2	190	4,407	4,116	2,320	1,042	367	0
R3	147	3,955	3,690	2,144	987	322	3
R4	170	3,796	4,243	2,607	1,525	527	5
R5	187	4,902	5,491	3,751	2,410	991	77

(3)女性



	20歳未満	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60歳以上	不明
R1	381	5,141	2,633	996	254	66	7
R2	195	2,755	1,371	457	118	32	0
R3	107	2,252	1,152	382	98	20	0
R4	104	2,144	1,336	464	166	23	1
R5	119	2,805	1,827	760	264	63	46

年齢層別のHIV検査件数は、男性は30歳代、女性は20歳代が最も多いが、60歳以上の高齢でも受検している。

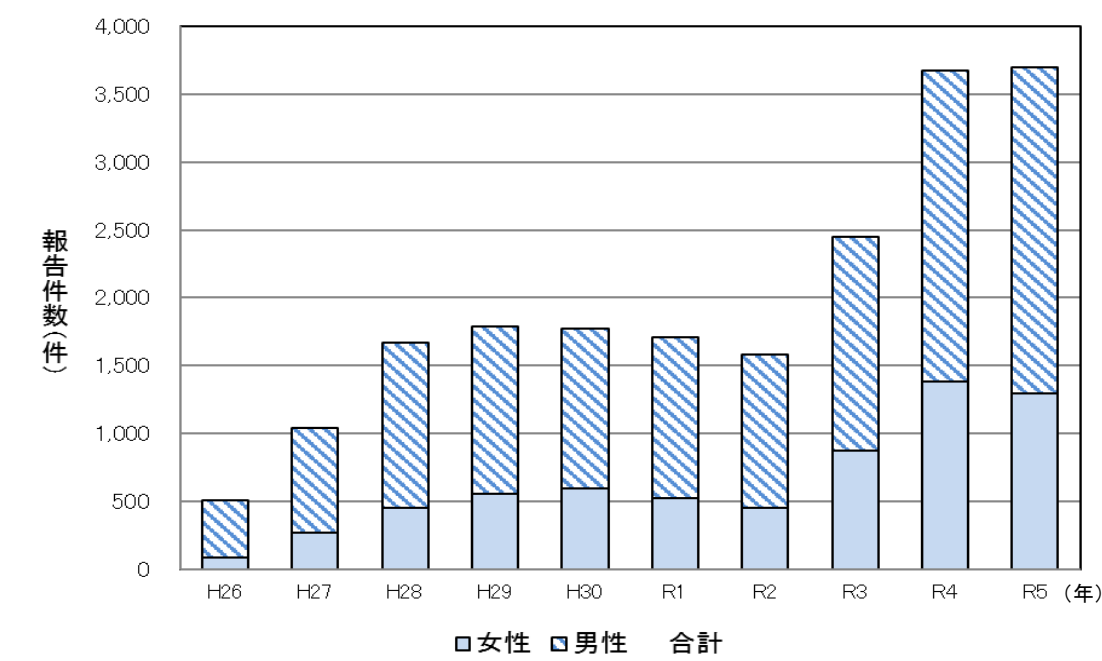
3 東京都の梅毒の発生動向

(図-9)

梅毒の患者報告数の推移
(過去10年)

梅毒とは？

梅毒トレポネーマというらせん状の細菌による感染症です。性行為で粘膜や皮膚の小さな傷から感染します。昔の病気と思われがちですが、近年患者数が増加しています。治療をしなければ、発疹やただれなどが出たり消えたりしている間に、病気が進行してしまいます。



	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
男性	420	773	1,218	1,229	1,180	1,189	1,125	1,577	2,291	2,409
女性	87	271	455	559	595	523	454	874	1,386	1,292
合計	507	1,044	1,673	1,788	1,775	1,712	1,579	2,451	3,677	3,701

ー東京都感染症情報センターHP「梅毒の流行状況」ー

梅毒の患者報告件数は3,701件で、前年より24件増加し、依然として多い状況が続いている。男女別に見ると、男性は118件増加し、女性は94件減少した。

(図-10)

梅毒の推定感染経路別報告数の推移
(過去10年)

梅毒の特徴①

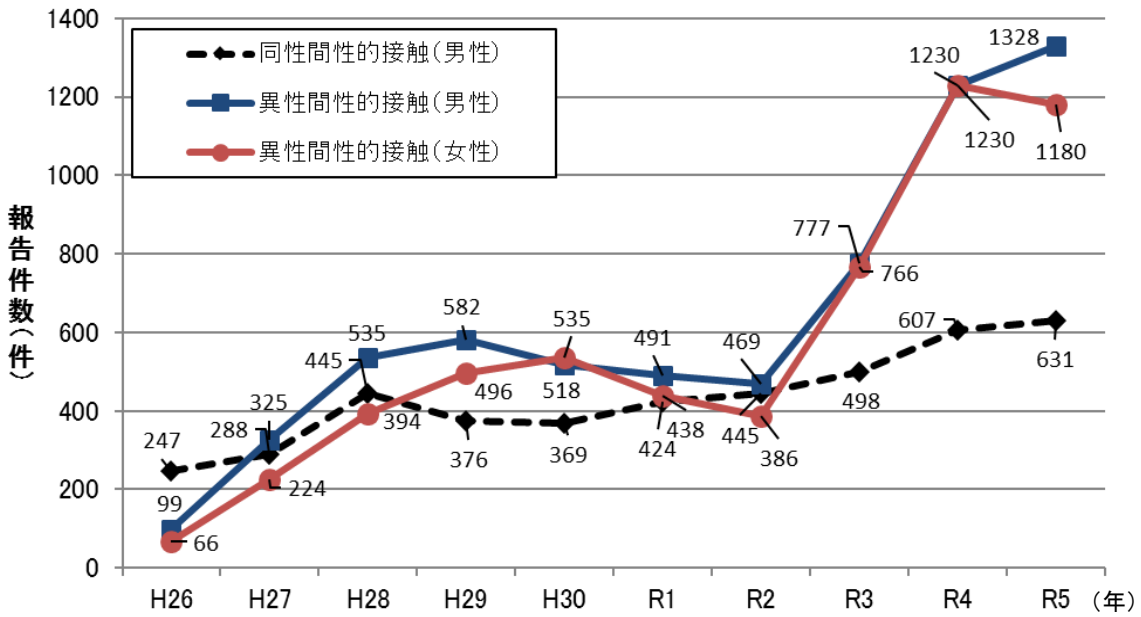
オーラルセックスでも感染します。

症状がなかったり、皮膚に症状がでて痛みやかゆみがないことがあります。

症状が自然と消え、治ったと思いつつも入ることもあります。

免疫ができないので、治療し、完治しても何度も感染します。

症状がなくてもパートナーを感染させることもあります。



※このグラフには、「両性間性的接触」が推定感染経路の場合は含まれていない。

ー東京都感染症情報センターHP「梅毒の流行状況」ー

異性間性的接触が多い状況が続いているが、前年より、男性は98件増加し、女性は50件減少した。
一方、同性間性的接触の男性は異性間接触より少ないが、631件と過去10年間で最も多かった。

(図-11)

梅毒の男女別・年齢別患者報告数の推移
(過去5年)

梅毒の特徴②

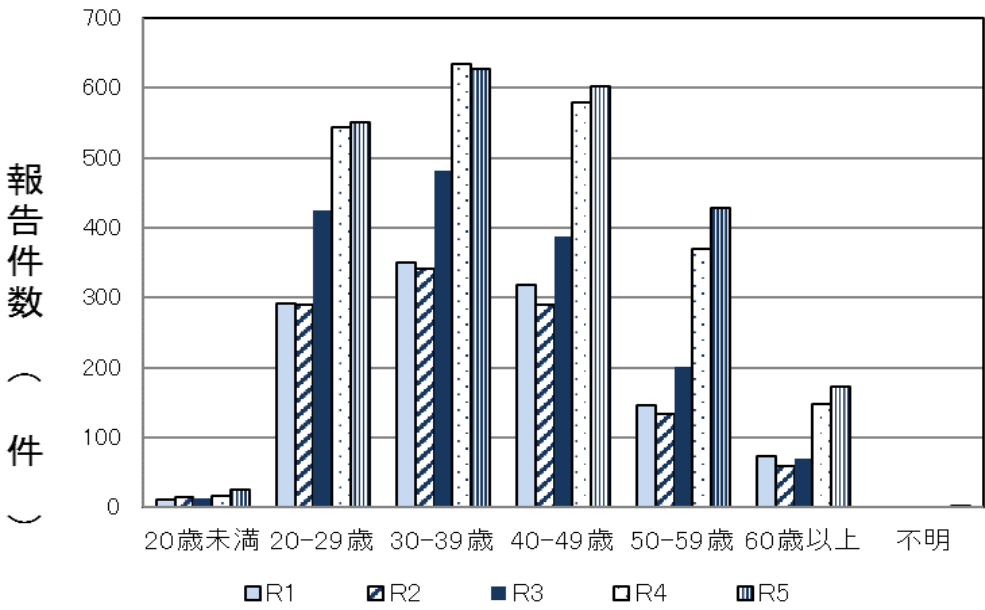
感染しているかどうかは検査で分かります。

パートナーも梅毒検査を受けましょう。

症状があるときはすぐに医療機関を受診しましょう。

予防には、コンドームの適切な使用が有効です。

(1) 男性

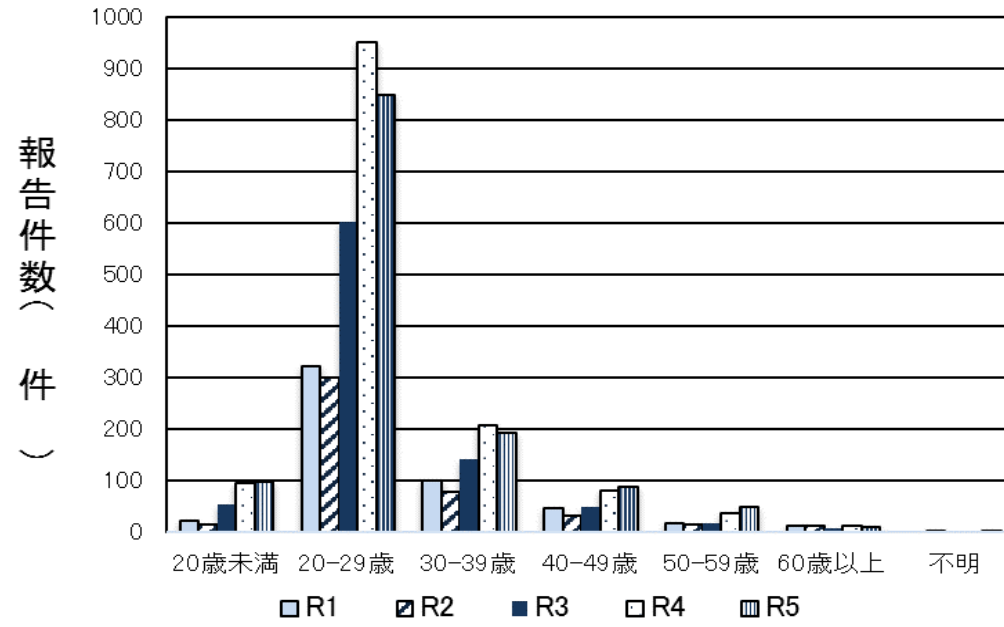


	20歳未満	20－29歳	30－39歳	40－49歳	50－59歳	60歳以上	不明
R1	10	291	350	319	146	73	0
R2	14	289	341	290	133	58	0
R3	12	425	481	388	201	70	0
R4	17	543	635	579	370	147	0
R5	25	551	627	603	428	173	2

梅毒の特徴③

女性が感染し治療しないでいると、妊娠した際に、お腹の赤ちゃんにも感染することがあります。

(2) 女性



	20歳未満	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60歳以上	不明
R1	23	323	100	47	18	12	0
R2	15	300	78	32	16	12	1
R3	54	603	143	50	17	7	0
R4	96	951	209	81	36	13	0
R5	99	850	194	88	49	11	1

—東京都感染症情報センターHP「梅毒の流行状況」—

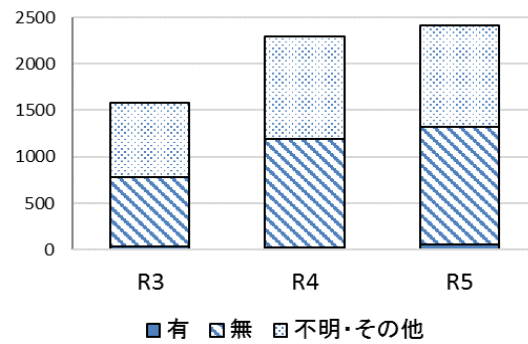
男女別報告件数は、男性は20～50歳代に多く、女性は20歳代に多い。
年齢別の年次推移では、男性は30歳代以外の年齢層で増え、女性は20歳未満、40～50歳代で増えた。

(図-12)

梅毒患者の男女別性風俗産業(直近6か月)従事歴(過去3年)

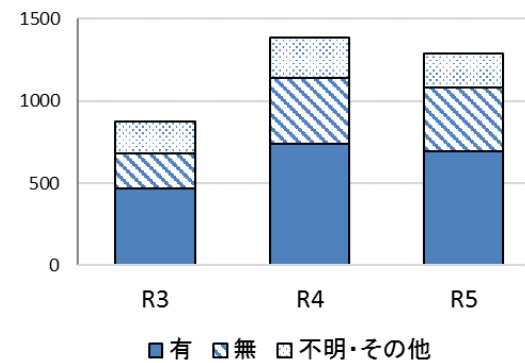
報告件数(件)

報告件数 男性



	R3	R4	R5
有	31	29	60
無	748	1,158	1,260
不明・その他	798	1,104	1,089

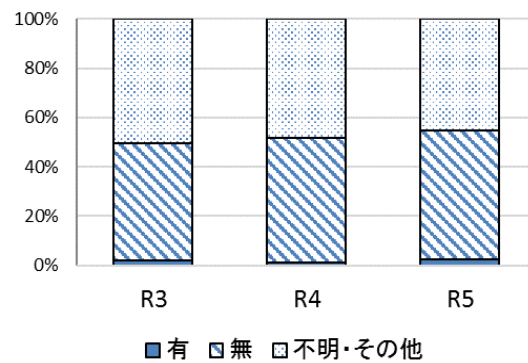
報告件数 女性



	R3	R4	R5
有	466	739	693
無	218	404	391
不明・その他	190	243	208

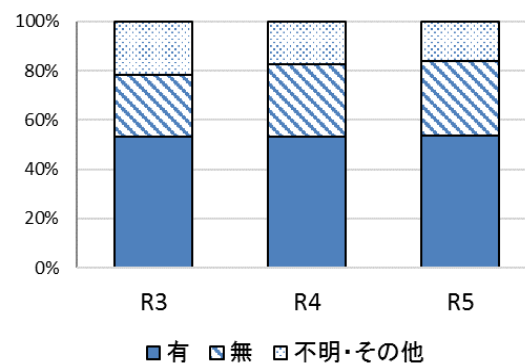
割合(%)

割合 男性



	R3	R4	R5
有	2.0%	1.3%	2.5%
無	47.4%	50.5%	52.3%
不明・その他	50.6%	48.2%	45.2%

割合 女性



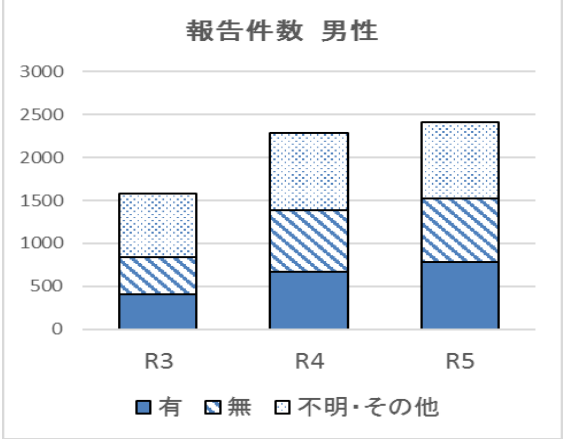
	R3	R4	R5
有	53.3%	53.3%	53.6%
無	24.9%	29.1%	30.3%
不明・その他	21.8%	17.6%	16.1%

女性の性風俗産業の従事歴有は、この3年間半数となっている。男性は、従事歴有がR5年は前年より2倍となっているが、割合は2.5%と少ない。従事歴無は半数となっているが、その他・不明も45.2%と多い。

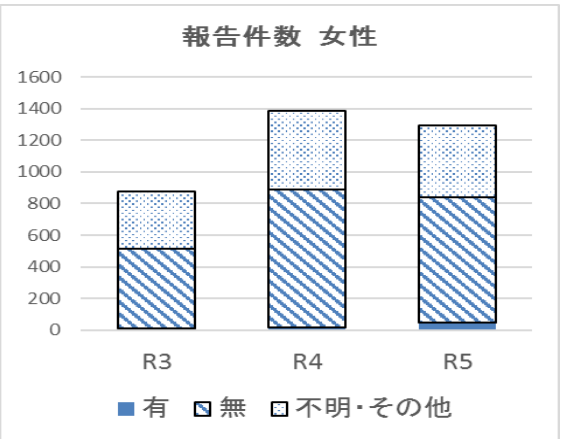
(図-13)

梅毒患者の男女別性風俗産業（直近6か月）利用歴（過去3年）

報告件数(件)

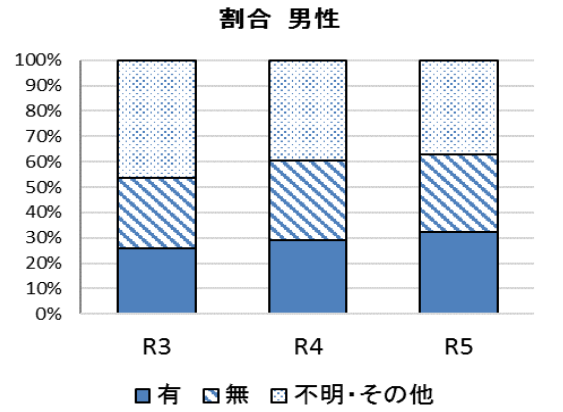


	R3	R4	R5
有	407	663	777
無	437	721	741
不明・その他	733	907	891

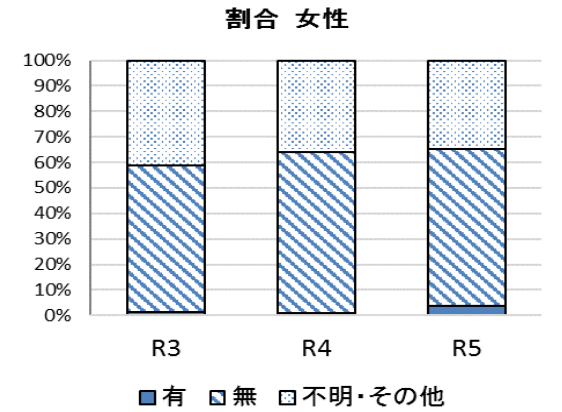


	R3	R4	R5
有	11	14	46
無	503	876	795
不明・その他	360	496	451

割合(%)



	R3	R4	R5
有	25.8%	28.9%	32.3%
無	27.7%	31.5%	30.8%
不明・その他	46.5%	39.6%	37.0%



	R3	R4	R5
有	1.3%	1.0%	3.6%
無	57.6%	63.2%	61.5%
不明・その他	41.2%	35.8%	34.9%

男性の風俗産業の利用歴有は、この3年間増えておりR5年は32%だったが、不明・その他も37%と多い。女性の利用歴無はこの3年間60%前後と変わっていない。

(図-14)

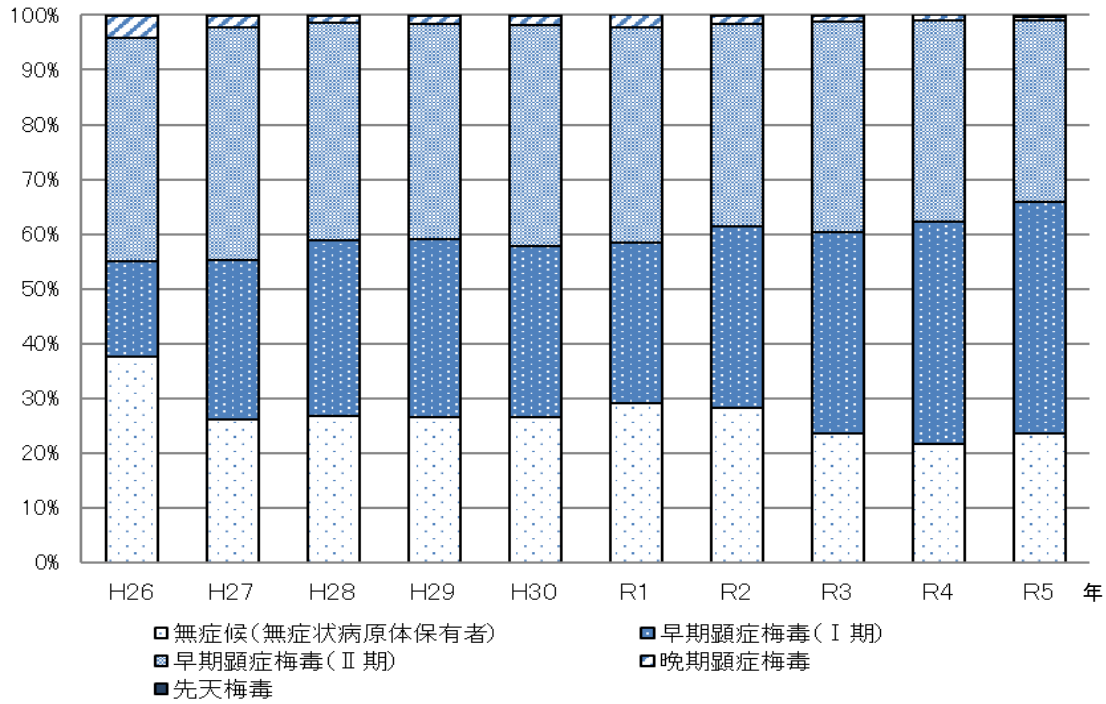
梅毒の病型別患者報告数の推移（過去10年）

梅毒の症状

無症候：症状は現れていないが、梅毒血清反応が陽性。

早期顕症梅毒（Ⅰ期）：感染した場所に、しこり・ただれ等の症状が現れている状態。

早期顕症梅毒（Ⅱ期）：Ⅰ期の症状が消えた後、手足・全身などに発疹の症状が現れている状態。



	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
無症候(無症状病原体保有者)	191	273	449	474	472	497	445	578	797	875
早期顕症梅毒(Ⅰ期)	88	304	535	584	555	504	525	903	1,496	1,564
早期顕症梅毒(Ⅱ期)	207	443	664	700	717	671	585	939	1,351	1,228
晩期顕症梅毒	20	22	23	26	30	40	22	28	33	25
先天梅毒	1	2	2	4	1	0	2	3	0	9

－東京都感染症情報センターHP「梅毒の流行状況」－

令和5年は無症候、Ⅰ期の報告数は令和4年と比較して、増加している。Ⅱ期は減少したものの、令和3年以前の報告数より依然として多い。晩期顕性梅毒は前年より減ったが、25件であった。先天梅毒は9件と過去最多となっている。

《梅毒情報》

東京都性感染症ナビ

東京都 性感染症 検索

東京都の梅毒の報告数や検査等の体制、イベントなどの最新情報を掲載しています。
また、eラーニングやマンガで梅毒について分かりやすく学ぶことができます。
<https://www.hokeniryo.metro.tokyo.lg.jp/seikansensho/index.html>



東京都保健医療局「梅毒について」

梅毒の症状や特徴、気をつけたいことについて掲載しています。
<https://www.hokeniryo.metro.tokyo.lg.jp/kansen/syphilis.html>



東京都保健医療局「性感染症ってどんな病気？」

梅毒やHIV/エイズ、その他性感染症について分かりやすくまとめたパンフレットです。
<https://www.hokeniryo.metro.tokyo.lg.jp/iryo/koho/kansen.files/sti.pdf>



《検査は匿名・無料》

★東京都新宿東口検査・相談室 通常検査(予約制)

HIV検査と梅毒検査の同時実施

住所： 新宿区歌舞伎町2-46-3 SIL新宿ビル2階
検査日時： 月～金曜日 15:00～20:00(毎週水曜日は、女性のための検査日です。)
土・日曜日 13:00～17:00
※祝日、振替休日、年末年始(12月29日～1月3日)除く

結果説明： 約1週間後

予約： 東京都HIV等検査予約センターで受付

※6/1～6/30及び11/16～12/15は、希望者には性器クラミジア・淋菌同時検査を実施
(尿検査のため、検査日の前日までに尿採取セットの受け取りが必要)



★東京都多摩地域検査・相談室 即日検査(予約制)

HIV検査と梅毒検査の同時実施

住所： 立川市柴崎町2-21-19 東京都立川福祉保健庁舎内2階
検査日時： 土・日曜日 9:50～11:00
※祝日、年末年始(12月29日～1月3日)除く

結果説明： 当日 ※HIVの判定保留の場合は原則1週間後に検査結果を通知します。

予約： 東京都HIV等検査予約センターで受付

検査に関する問い合わせ： 090-2537-2906 (平日:9:30～17:00、土・日9:30～15:00 ※祝日、年末年始除く)



★東京都HIV等検査予約センター

上記検査・相談室のほか、東京都保健所(多摩立川保健所、多摩府中保健所、多摩小平保健所)のHIV検査等の予約受付
電話番号：050-3801-5309 (10:00～20:00 ※年末年始除く)

★東京都HIV/エイズ電話相談

HIV感染の不安や予防方法についての相談、HIV検査に関する情報提供
電話番号：03-3227-3335 (月～金:12:00～21:00、土・日・祝日:14:00～17:00 ※年末年始除く)

★各保健所での相談・検査

HIV/エイズ、梅毒等の性感染症に関する病気の相談、各保健所で実施している検査についてのお問い合わせは各保健所へ。

【発行】東京都保健医療局感染症対策部
防疫課エイズ対策担当
〒163-8001 新宿区西新宿二丁目8番1号
電話 03-5320-4487